

令和6年度 自己評価表 (全日制)

松山南高等学校 (全日制課程)  
学校番号(21)

教育方針	国家社会の有為な形成者として、広く世界的視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与する若人の育成を期する。	重点目標	志高く 心を耕し 言葉を磨け
------	--	------	----------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
自己実現の支援・個性伸長の支援	生徒のキャリアデザイン能力の育成と自己実現の積極的な支援	1日平均家庭学習時間： 1・2年生は、3時間以上が50%以上、3年生は、5時間以上が50%以上。(A:+50% B:+40% C:+30% D:+20%)	D	6月調査、1年生19%、2年生18%、3年生9%。10月調査、1年生12%、2年生13%、3年生35%。1年生、2年生ともに減少。3年生は増加。年々学習時間は減少傾向にある。	ICTの活用も含め、課題の出し方や提出方法を適宜見直ししながら、学習時間を確保させたい。昨今の時代の風潮である「コスパ」の考えも加味しながら、何のために学ぶのかといった根本的な指導に努めなければならない。
		現役生の国公立大学合格者数：250人以上 (A:+250 B:+230 C:+210 D:+200)	A	合格者は286名。	入試制度の変化や多様な選抜方法に対応できるよう、総合的な力の育成に努める。
		現役生の難関国立大学合格者数：20人以上 (A:+20 B:+15 C:+10 D:+5)	B	合格者は17名。	高い達成目標を設定し、その目標や適性に応じた個別指導を充実させる。
	生徒の個性・能力の伸長の支援	全国模試平均偏差値：60以上 (A:+60 B:+56 C:+54 D:+52)	C	進研模試で1年生57.7(2回)2年生57.0(2回)3年生文系55.9 理系53.8(6回)。	個別最適な学びを念頭に、ICTの活用も含めて指導方法の工夫をさらに進め、学力の向上を図る。
		部活動加入率：90%以上 (A:+90 B:+86 C:+84 D:+82)	A	部活動加入率91.5%	入部後も3年次まで安定して継続的な活動がおこなえるように引き続き取り組んでいきたい。
		体育部において四国大会出場6部以上、全国大会出場4部以上 (A:+6 B:+4 C:+3 D:+1)	A	四国大会7部出場(登山男子・登山女子・弓道男子・弓道女子・バドミントン男子・陸上競技・総合活動)全国大会5部出場(登山男子・登山女子・ダンス・弓道男子・バドミントン男子)	団体競技(球技部等)での出場が達成するように取り組んでいきたい。
県高校総文祭優秀賞：6部門以上 (A:+6 B:+4 C:+3 D:+1)	A	優秀賞6部門(コーラス・弦楽・美術・放送・文芸・自然科学)	他校との合同での出場が2部門あり、次年度は単独校として出場できるように取り組んでいきたい。		
豊かな教養の涵養・豊かな人間性の育成	先進的なSSHの取組により新しい価値を創生する未来創造型科学技術人材の育成	全国レベルの国際科学系コンテスト入賞数：5件以上 (A:+5 B:+4 C:+2 D:+1)	A	アジア国際生物系学会(AABE) Best Presentation賞 高校生・高専生科学技術チャレンジ 敢闘賞・入選・佳作 地学オリムピック 一次予選通過(2)	次年度も多様なコンテストに積極的に参加し、最終審査会や上位入賞を目指して精進したい。
		全国レベルのアイデア系コンテストへのチャレンジ：各生徒1件以上	A	目標を達成するとともに、入賞率が昨年度に比べて増加した。(出品数の割合：29.3%→31.1%)	全出品数に占めるアイデア系コンテストの割合が、昨年度に比べて73.9%→63.3%に低下したので、高いレベルで維持したい。
		理数科生徒におけるSSH事業の成果を活用した進路実現100% (A:100 B:+80 C:+50 D:50未満)	B	在籍40名中、3月12日現在で学校推薦型選抜合格5名、総合型選抜合格13名、一般選抜で国公立合格11名。	中・後期の結果を踏まえて浪人生がいなければA:100になり、浪人生がいる場合はB:+80となる。その場合は次年度の既卒生として加えて評価する。
	心身ともに健康で人間性豊かな生徒の育成	出席率：99%以上 (A:+99 B:+98 C:+96 D:+94)	C	1月末現在、97.1%で、昨年度の96.9%より微増。コロナウイルスの流行から、「無理をしない」「無理をさせない」という考えが染みついた感がある。	出席率も大切だが、学校に来れない生徒のフォロー、学校に来ても教室に入れない生徒のフォロー等、関係機関との連携を図りながら、生徒理解に努めたい。
		重大交通事故発生件数：0件 (A:0 E:+1)	B	命にかかわる重大事故は発生しなかったが、軽微なものを含めた発生件数は昨年と同水準であった。	時間にゆとりを持つこと、思いやり運転を含めたマナーの遵守、ヘルメットの適正着用が事故防止のカギであることを引き続き指導していきたい。
		いじめはどこでも起こり得るとの認識に立ち、早期に発見し解決する。	C	1学年において、ある生徒がクラスの生徒に対して粗暴な行為を働いたり、相手が嫌がる言動をとったりする事案が発生した。学年や生徒指導課を中心に事実関係を調査し、当該生徒に反省を促す指導を行った。	定期的に行っている「いじめ・体罰アンケート」や、クラスの生徒からの訴えから事実確認→指導という流れで対応した。今後も「早期に発見し解決する」体制を維持し、適切な対応を心掛けていきたい。
「オール南高」の意義を全校生徒が理解し、定時制・砥部分校と共有する。	B	夏のポロシャツの導入にあたり、ロゴマークのデザインを砥部分校と共同作成したり、造形コンテスト(文化祭)、芸術文化発表会において、定時制・砥部分校との交流機会を設けたりすることができた。	文化祭や芸術・文化発表会などの行事を通して「オール松山南」の意義を共有していく。		
働きがいと仕事量のバランスのとれた職場環境の形成	ストレスチェックを指標として、仕事量とコントロール、上司と同僚の支援、総合健康リスクを健全に保つ。	C	ストレスチェックは、改善すべき大きな問題点はなく、昨年度同様比較的評価できる結果であったが、超過勤務の教職員も少なからずいる。	業務削減と適材適所の校務分掌の実施により勤務時間外在校等時間を減らし、仕事環境の改善整備の実行により心の健康を保つ。	

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。